

IPW緩和ケアコース

多職種協働事例検討研修

日時 2025/ **9/13** 土

今回のみ14時-17時となります

第3回 「怒り」の矛先になる時

14:00-17:00 (全6回)

事例

Aさん(50歳代)は、夫の仕事の同伴しての海外生活中に、卵巣がんを発病した。日本に帰国し治療を受けていたが、BSC期となった。入院中は過度な要求を主治医や看護師にして、苦情の申し立ても多い。スタッフたちはその対応に苦慮し、疲弊感を感じている。BSCを告げる時、過度な要求と「怒り」をあらわに、治療継続を求めるAさんと夫にどう対応したら良いのだろう。

講師

がん研有明病院 腫瘍精神科部長 清水研 氏

会場

オンライン
(ZOOM)

対象

医師・看護師・
MSW・薬剤師など

5/10 土 倫理ジレンマ

事例 認知症高齢者のAさんに積極的
化学療法がなされている。家族
の要望ではあるけれど...

講師 京都大学 臨床倫理准教授

7/12 土 麻薬:
ケミカルコーピング

事例 痛みの訴えと易度性が高くなって
いるAさん。これは医療麻薬の依
存症? 医療者は巻き込まれる

講師 金沢大学病院 専門薬剤師

11/8 土 AYAの治療拒否

事例 AYA患者のAさんは、治療を拒否
する。家族は治療希望で医療者
間でも意見が分かれて...

講師 聖路加国際病院 小児科部長

1/10 土 多問題家族:
ヤングケアラー

事例 家庭内別居のAさんは、長男(中
学生)を頼りに療養し、病院への
付き添いも長男である

講師 がん研有明病 がん看護専門看護師

3/14 土 終末期鎮静療法
とSDM

事例 耐え難い苦痛でAさんは、「鎮静
療法」を選んだ。家族は夜間・休
日問わず、説明を求める

講師 国立がんセンター 緩和ケア医長

申込

長野北信がんプロホームページの「受講者の方へ」から、または右のQRコードから
お申し込みください。その際に、申込みフォームお問合せ欄に、第何回を受講され
るかを記入してください。 例：全回希望、第3、4回希望 など

申し込み締切り：9月6日(土)

